



公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

2021年度プラン・インターナショナル年次報告書

PLAN INTERNATIONAL ANNUAL REPORT 2021

2020/7～2021/6

プランが支援する教育プロジェクトで学ぶ少数民族の子どもたち（ベトナム）

ごあいさつ



公益財団法人
プラン・インターナショナル・ジャパン理事長

池上清子

Profile

いけがみ きよこ
国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）、国連本部、（公財）ジョイセフ、国際家族計画連盟（IPPF）、国連人口基金（UNFPA）を経て、2016年より現職。長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授、日本赤十字社理事

日ごろよりプラン・インターナショナルに温かいご支援とご理解をお寄せいただき、心より感謝申し上げます。皆さまからのご支援で、プランが2021年度（2020年7月～2021年6月）に実施した活動の成果について、ここに報告書をお送りします。

2021年度は、世界中が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による不安や閉塞感に覆われた1年となりました。現地での活動やプラン・スポンサーシップにおける交流にも大きな影響が生じましたが、職員一同、工夫を凝らしながら「ジェンダー平等の実現」を目指し、困難に直面している子どもや若者、とりわけ女の子たちの支援に取り組むことができました。プランが2020年度より継続している新型コロナウイルス対策緊急支援には、非常に多くの方々にご支援をいただきました。改めて、皆さまのご理解とご協力に感謝申し上げます。

コロナ禍により、私たちの生活様式も大きく変わった1年でしたが、世界中の女の子たちがジェンダーに基づく暴力や早すぎる結婚、人身取引などの犠牲となり、自らの人生を自分で切り開くための機会や自由を奪われる状況が加速しています。また、教育が中断された子どもたちは世界で16億人以上と言われています。国や地域によっては1年以上休校を余儀なくされるなど、かつてない規模での教育危機が引き起こされました。プランは、子どもたちが教育を継続するための支援を続けるとともに、特に弱い立場に置かれていた女の子たちが、再び学校に戻ることができるよう、国際社会に対し支援の必要性を引き続き訴え続けてまいります。

また、日本を含む先進国の女の子や女性たちの経済的な困窮も深刻化しています。日本国内でも「生理の貧困」が話題になるなか、プランが行った日本の若年女性を対象とした生理に関する調査では、経済的な困窮だけでなく、生理にまつわるスティグマ（恥とみなされること）などのネガティブな感情が、若年女性の機会損失につながる可能性が明らかになりました。持続可能な開発目標（SDGs）の達成において「ジェンダー平等の実現」は重要な目標のひとつです。世界中の女の子、女性が機会を損失することなく、リーダーシップを発揮できる社会の実現にむけてプランは活動を続けてまいります。

CONTENTS

2	2021年度のハイライト
3	ごあいさつ
4	決算の概要 プロジェクト実施地域とデータ
6	活動テーマと成果
8	プラン・インターナショナルの2021年度

10	緊急支援
12	プラン・スポンサーシップ
16	ガールズ・プロジェクト
18	グローバル・プロジェクト
20	いろいろな支援のカタチ

22	アドボカシー／ユースグループ／開発教育
24	活動に賛同くださる企業・団体との連携
26	日本のプランの決算報告
30	国際連結決算速報
31	組織について

2021年度の ハイライト

収益

総額（世界）

約 10億ユーロ

総額（日本）

約 37億円

※皆さまからのご寄付のほか助成金等も含む

活動成果

支援した子どもの数

5,032万7,846人

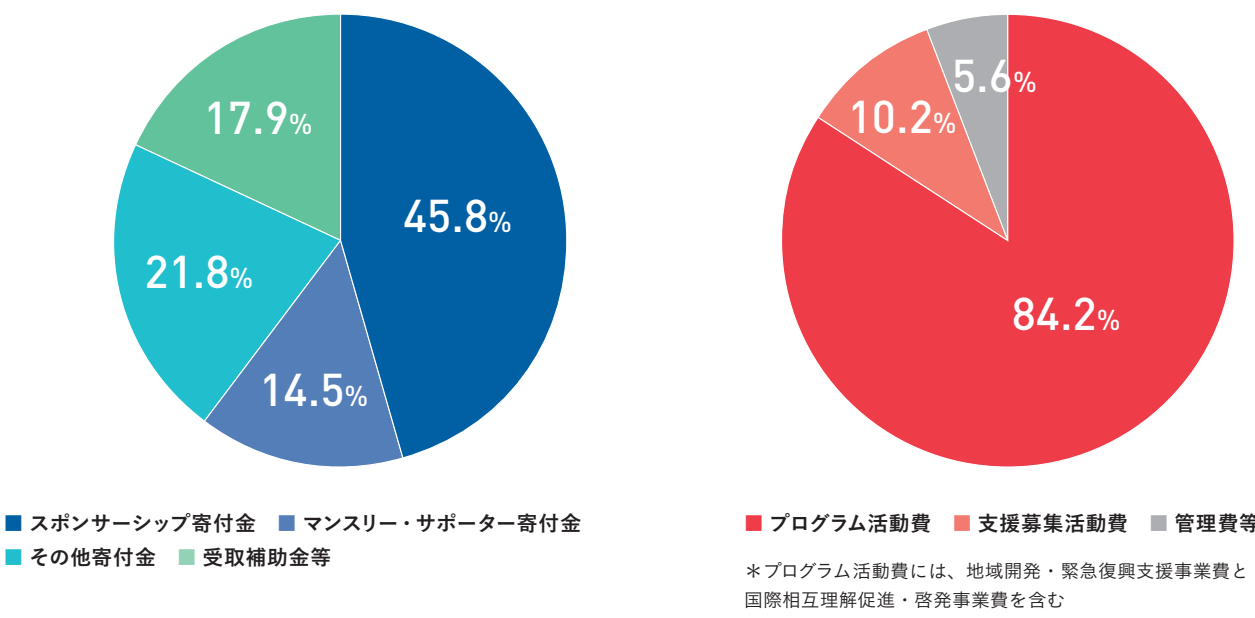
実施したプロジェクト数

1,806プロジェクト

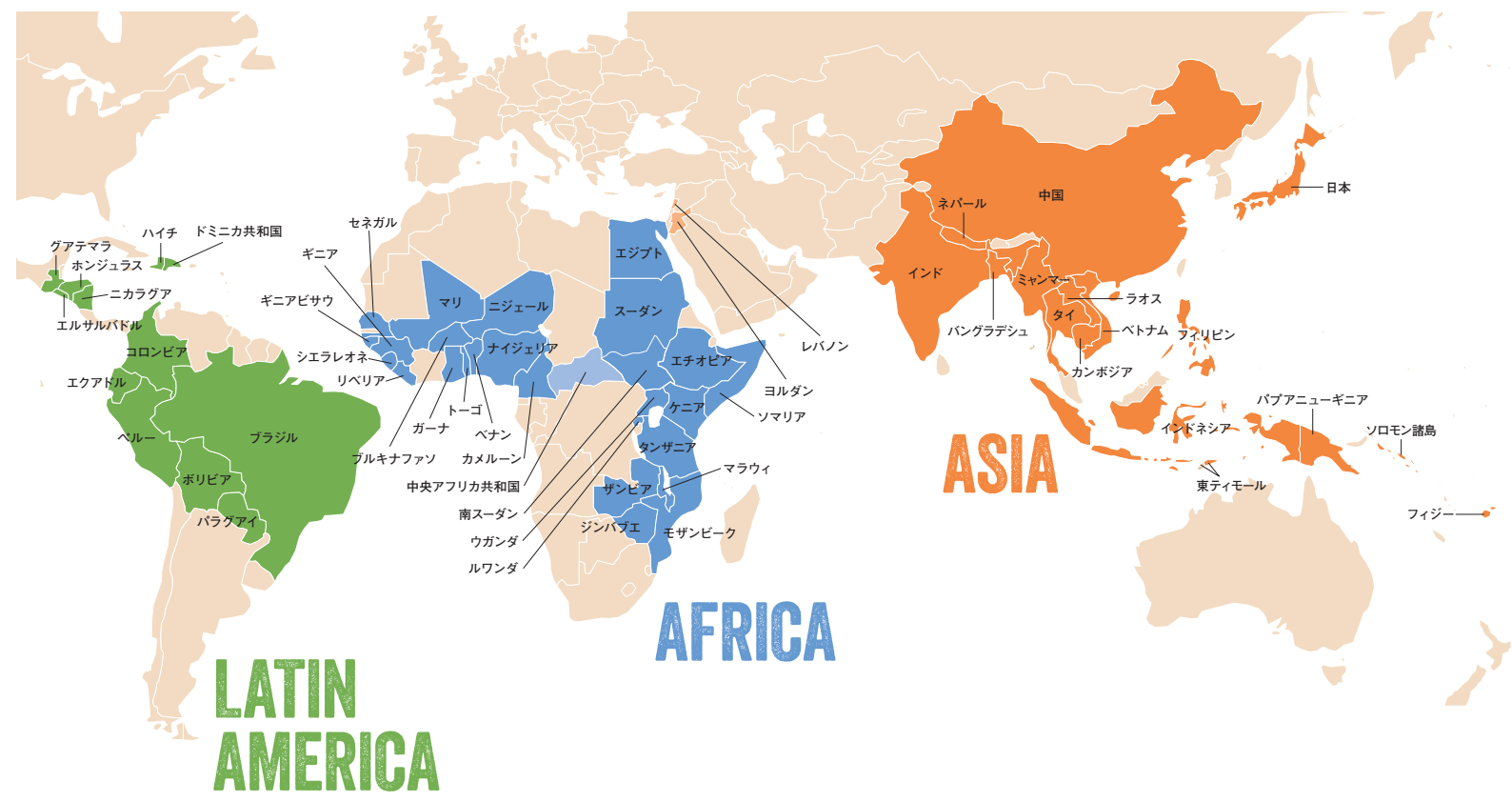
2021 年度 プラン・インターナショナル決算の概要

日本のプラン 2020年7月1日から2021年6月30日まで ※詳細はP26をご覧ください

収益 **37億7,939万5千円** 費用 **40億2,335万1千円**

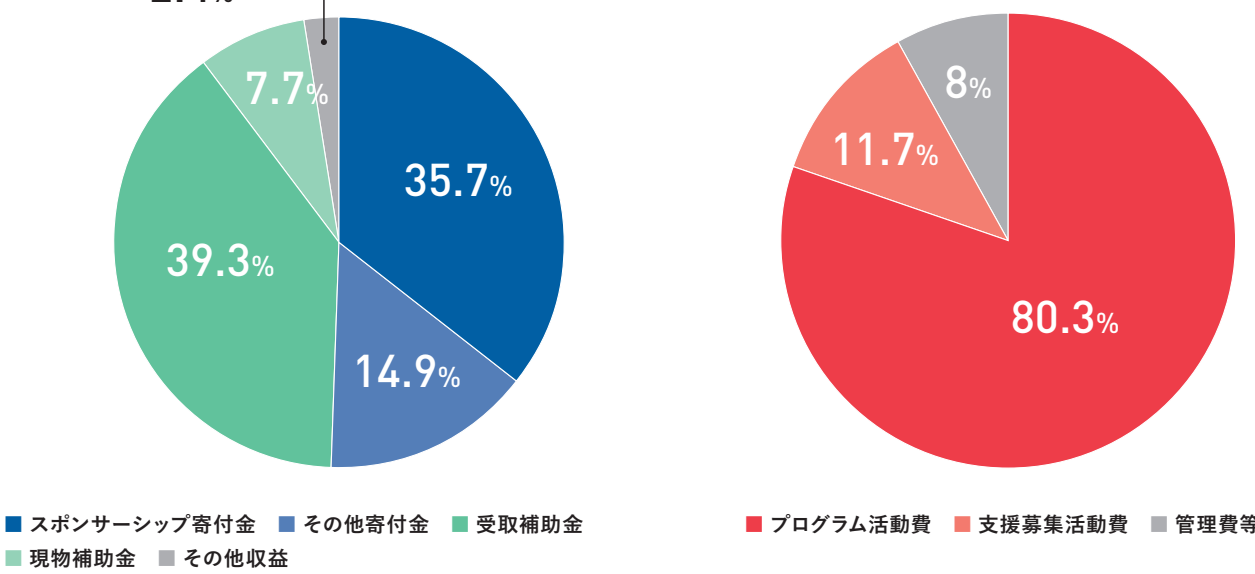


プロジェクト実施地域とデータ

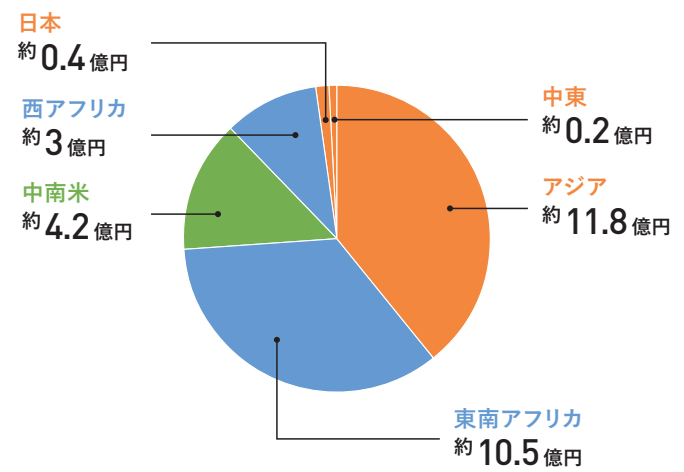


世界のプラン 2020年7月1日から2021年6月30日まで ※P30の速報値をもとに作成しています ※1ユーロは約134円です(2021年6月現在)

収益 **10億968万ユーロ** 費用 **9億2,979万2千ユーロ**



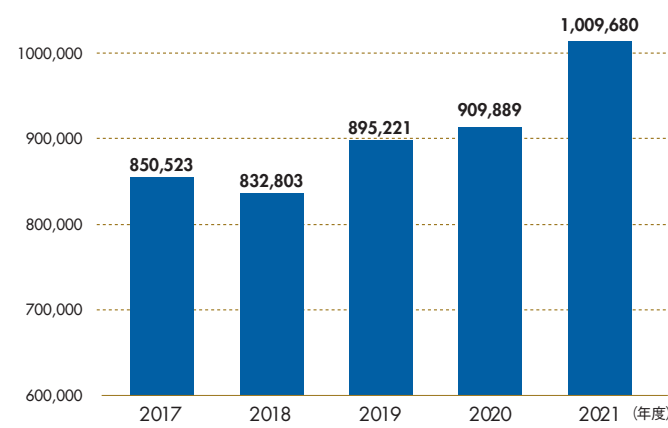
日本のプランの地域別支援額



日本のプランのデータ (2021 年 6 月 30 日時点)

職員数	75 人
ボランティア数	約 300 人 (来局・在宅含む)
ユース・グループ	26 人
イベント開催回数 (オンライン含む)	14 回

世界のプランの総収益額推移 (単位: 1,000€)



世界のプランのデータ (2021 年 6 月 30 日時点)

職員数	9,467 人 (プロジェクトを実施している国)
活動国数	78 カ国
年間に行ったプロジェクト数	1,806
活動している地域数	6 万 1,231

活動テーマと成果

誰もが質の高い教育を受けられるために



約**2,202**万人を支援

どのような状況下であっても、誰もが等しく、継続的に質の高い教育を得られるように支援します。



若者が生計向上の手段を得るために



約**343**万人を支援

必要な技術を身につけ、職を得たり、みずから起業したりすることで経済力をもてるように支援します。



子どもの健やかな成長のために



約**1,726**万人を支援

すべての子どもたちが、安全な環境のもとで健やかに成長できるように支援します。



子どもを保護するために



約**2,188**万人を支援

疎外された弱い立場にある子どもたちへの差別、とくにジェンダーに基づく暴力から子どもたちの安全を守ります。



子どもや若者が社会変革に参加するために



約**1,253**万人を支援

女の子、男の子、若者が声をあげ、その意見が尊重され、政策や人々の意識、行動が変わるように力づけます。



女の子と若い女性の性と生殖に関する健康と権利を守るために



約**4,511**万人を支援

女の子と若い女性が正しい知識を得て、自分の身体に決定権をもち、一生にわたり健康に過ごせるように支援します。



緊急支援 ※新型コロナウイルス感染対策緊急支援を除く



約**3,771**万人を支援

人々の尊厳を守り、レジリエンス(回復力)を高めます。とくに影響を受けやすい女の子のニーズに配慮します。



プラン・インターナショナルは子どもの権利が守られ、女の子が差別されない公正な社会を目指しています。ジェンダー平等な社会の実現により近づくために、活動をすすめています。すべての活動は、「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs)の達成に貢献しています。



公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン 代表理事・専務理事 / 事務局長

棚田雄一

Profile

日本放送協会(NHK)報道局、国際協力機構(JICA)、国際連合児童基金(UNICEF)モンゴル事務所、国連開発計画(UNDP)アフガニスタン事務所、国際協力NGOなどを経て、2016年より公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン専務理事。2019年7月より現職

2021年度は、1年を通じて新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けました。活動地域では、感染予防対策に注力しつつ、活動の見直しや追加を検討し、現地のニーズに即した活動をすすめました。また、ラオスやジンバブエなど5カ国に駐在していた日本事務局職員のほとんどが帰国を余儀なくされ、出張や新規の駐在も難しくなりました。こうしたなか、職員は各地の現地担当者と連携を密にしながら、遠隔でプロジェクトの管理・運営に努めました。日本国内においては、積極的に途上国の状況について情報発信を続け、プランの活動の意義をご理解いただくとともに支援の輪の拡大を図りました。また、国内でもコロナ禍で女の

子の相談ニーズが高まっていることを受け、2020年6月に「女の子のためのチャット相談」を開設し、2021年度は880件の相談が寄せられました。2020年8月にパイロット事業として都内に開設した女の子のための居場所「わたカフェ」は、緊急事態宣言による一時的な閉所期間もありながら、順調に利用者を伸ばし、女の子たちに寄り添う支援を行いました。

世界がこれまでにない危機的な状況に直面するなか、プランが今年度も現地のニーズに合わせた活動をできたのは、皆さまのご支援のおかげです。改めて感謝を申し上げます。皆さまのご支援により達成した2021年度の活動ハイライトもご覧ください。

■子どもの教育

2021年5月に開催されたG7外相会議でも、新型コロナウイルス感染症が子どもたち、特に女の子たちの教育に重大な影響を及ぼしているとして、女子教育を後退させないための具体的な数値目標が示されました。

プランは休校措置などで、学校へ通えなくなった子どもたちが不安なく学校へ戻れるように、学校に手洗い場を設置したり、学用品などを支給したりしました。また、国連機関とともに「女の子を学校に戻すためのガイド」を作成し、質の高い教育を継続して受け続けることとジェンダー平等を目指した学校づくりの重要性を訴えました。

■性と生殖に関する健康と権利

休校や移動制限などにより、包括的な性教育や必要なサービスを受けることが難しくなったほか、家庭の経済状況が悪化し、ジェンダーに基づく暴力や早すぎる結婚が増加しています。プランは感染予防を最優先にしつつ、「性と生殖に関する健康と権利」や月経衛生管理に関する啓発活動、被害者への心理的ケアなどの支援をすすめました。

また、アジア・太平洋地域統括事務所では、2030年までに早すぎる結婚を根絶させることを目指し、10カ国で21のプロジェクトがすすめられています。日本のプランもこの目標達成にむけてさらなる支援を行っていきます。

■緊急支援

干ばつや洪水などの自然災害は、紛争や新型コロナウイルス感染症と相まって、飢餓や食料不安の急激な増加をもたらしています。2021年6月、国連は世界43カ国で4,100万人が飢饉に陥る寸前にいることに警鐘を鳴らしました。

また、気候変動による自然災害が原因で、2021年だけで少なくとも400万人の女の子が教育を受けることができなくなると言われています。こうした状況のなか、プランは2021年度、世界全体で136件の災害支援に対応し、緊急時における教育プログラムや、子どもの保護、現金支給などの支援を行いました。

プラン・インターナショナルの2021年度（2020年7月～2021年6月）

7月

熊本県で「令和2年7月豪雨」緊急支援を開始

7月から12月までの約6カ月間、熊本県に拠点を置く災害緊急支援団体を通じて支援活動を実施。災害ボランティアセンター5カ所、地域支援合いセンター6カ所の運営をサポートしたほか、約500人の被災した方々に生活物資を支給した。



さまざまな機関と連携して行った支援活動

9月

保健プロジェクトの
現地パートナー
アタイ・アリスさん



UNICEF
2020年そしてその先へ

国連総会で プラン・インターナショナルが サイドイベントを開催

75周年を迎えた国連は、新型コロナウイルス感染症の影響で、初めてオンラインによる国連総会を開催した。プランは企業やNGOとともにサイドイベントを開催。ウガンダの西ナイル州でプランが行っている保健プロジェクトの現地パートナー看護師のアタイ・アリスさんが参加し、医療の現状と課題について訴えた。

10月

ベトナム洪水緊急支援

豪雨に加え、台風の影響により甚大な洪水被害を引き起こしたベトナム中部の3省において緊急支援を開始。食料や調理器具のほか生理用品などの衛生用品を配布するなど、政府関係者やほかのNGOと連携し、3万世帯以上に必要な支援を行った。



支援物資を運ぶプラン職員

12月

国会議員勉強会で コロナ禍の女の子への 影響について説明



現状を説明する理事長の池上(左)と上川法務大臣(右) 写真提供：公益財団法人アジア人口・開発協会

プラン理事長の池上清子が、国際人口問題議員懇談会*のSDGs勉強会に出席。国会議員を対象に、プランの活動について説明するとともに、新型コロナウイルス感染症が世界と日本の女の子に及ぼす影響について説明した。

*会長 上川陽子法務大臣(2020年12月当時)・事務局：公益財団法人アジア人口・開発協会



教育社会学、ジェンダー学を専門とされる多賀太さん



活動国では男の子もジェンダー平等の取り組みに参加している

3月

国際女性デーに オンライントークイベントを開催

女性デー

「男性学の視点から考えるジェンダー平等」というテーマで、教育社会学、ジェンダー学を専門とされる関西大学文学部教授の多賀太さんをお迎えし、オンライントークイベント

を開催。男性にとつてのジェンダー平等をテーマに、コロナ禍がもたらしたジェンダーへの影響やジェンダーに基づく暴力をなくすために男性ができることなどについてお話しいただいた。

10月

国際ガールズ・デー 「Girl's Leadership ～女の子が変える未来～」



代議員議長を務める15歳のCindi（ドミニカ共和国）

政策提言(アドボカシー)

日本を含めたプランの活動国で「女の子の権利」や「女の子のエンパワーメント」を実現するためのアクションが実施され、各国のリーダーにむけて女の子が直面する課題の改善を求める提言を行った。2020年の世界ガールズ・レポートでは世界31カ国で15～24歳の1万4,000人の女の子を対象に「オンライン・ハラスメント」について調査し、結果を報告。日本ではユース・グループが一般社団法人ソーシャルメディア利用環境整備機構との



TwitterとInstagramで同時配信したスプツニ子!さんと大崎麻子さんによるトーク・イベント
撮影：ウシオダキョウコ／プラン・インターナショナル

意見交換を行い、オンライン・ハラスメントの現状を変えるための提言書を発表した。

イベントの開催

アーティスト・東京藝術大学デザイン科准教授のスプツニ子!さんと国際協力・ジェンダー専門家の大崎麻子さんによる、トークイベントを開催。コロナ禍の女の子たちとデジタルをテーマに、これからの世界に必要なこと、取り組むべき課題などをSNSでライブ配信した。

スプツニ子!さん(右)と大崎麻子さん
撮影：ウシオダキョウコ／プラン・インターナショナル



11月

「女性に対する暴力撤廃の 国際デー」記念イベントを共催

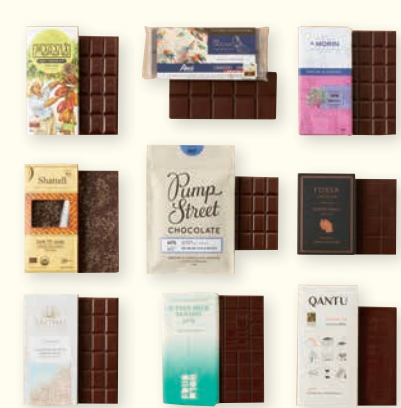
国連人口基金(UNFPA)東京事務所と協働し、11月25日の「女性に対する暴力撤廃の国際デー」に合わせイベントを開催。女性に対するさまざまな形の暴力を取り上げ、世界における女性の健康に関する有害な慣習の実態や、日本国内の性暴力やハラスメントに関する議論を行った。



課題解決のための連帯を訴えるプランのユース
撮影：佐藤和広／プラン・インターナショナル

2月

世界の女の子をチョコで支援(サポート)
#サポチョコ



サポチョコを展開

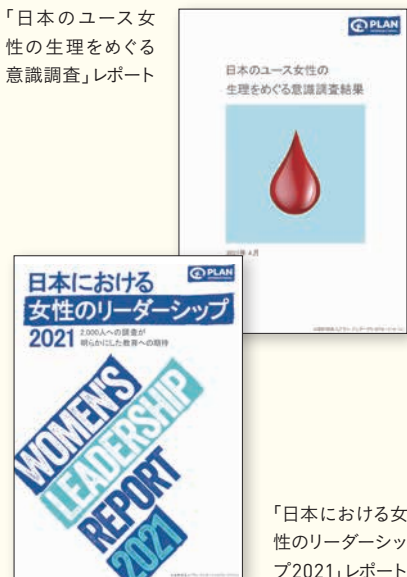
バレンタインに、読売新聞OTekomachi、松屋銀座、ぐるぐりの賛同を得て「世界の女の子をチョコで支援(サポート) #サポチョコ」を展開。販売されるタブレットチョコレートの購入やSNSでの「#サポチョコ」の拡散を促すことで支援の輪を広げようという取り組み。オンラインでの販売も加わり、より多くの方が世界の女の子たちに思いを馳せ、応援する機会となった。

4月

アドボカシーグループが 2つの調査を実施

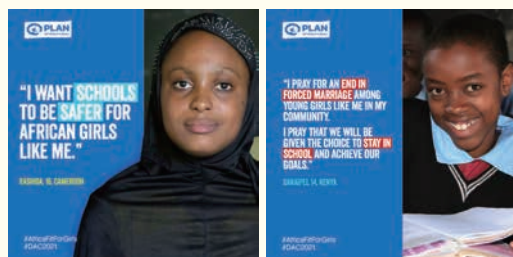
アドボカシーグループは、日本における女性のリーダーシップ発揮を阻む要因などを明らかにするために調査を実施。また、コロナ禍で「生理の貧困」が話題になるなか、生理と生理に関係する日常生活について調査を行い、その結果を公開した。

「日本のユース女性の生理をめぐり意識調査」レポート



「日本における女性のリーダーシップ2021」レポート

6月



女の子たちの願い

(左) 学校がアフリカの女の子たちにとって安全な場所となりますように (右) 強制的に結婚させる習慣がなくなり、自分の意志で教育を受け、夢をかなえることができますように

「アフリカ子どもの日」に 警鐘を鳴らし、 支援の必要性を訴えた

6月16日「アフリカ子どもの日」に際し、脆弱なガバナンスと、拡大する社会的経済的不平等により、貧困が深刻化しているアフリカの中央サヘル地域の子どもたちへの支援を強く訴えた。新型コロナウイルス感染症のパンデミックのなか、特に女の子たちが、激化する紛争や貧困の蔓延で教育を受ける機会を奪われていることから、各国政府に資金援助を呼びかけた。

緊急支援

自然災害や紛争により、避難を余儀なくされた方々への救援物資の提供をはじめ、子どもたちの保護や心のケアなど、その後の長期的な視野にたった緊急・復興支援を行っています。

2021年度、日本で寄付を募ったプロジェクトは、新型コロナウイルス対策緊急支援、ベトナム洪水緊急支援、「令和2年7月豪雨」緊急支援（日本）の3件です。ここでは特に新型コロナウイルス対策緊急支援について活動の一部をご報告いたします。

新型コロナウイルス対策緊急支援

費用合計	ご寄付いただいた件数	支援を届けた人数
約 3,240 万円	1,856 件	52 カ国 8,190 万人以上

*日本の皆さまから募った寄付合計金額

安全な水の供給や医療設備が十分ではない地域では、感染症への対策が脆弱であるため、対応が急務でした。感染の拡大は、もっとも困難な状況にある人々、なかでも女の子と女性の安全を脅かし、差別や不平等を助長する恐れがあります。プラン・インターナショナルは、特に見過ごされがちな女の子への支援を最優先に、感染予防対策を行いました。



(上) 食料セットを受け取った家族(インド) (下) プランから教育資金の支援を受けたチャイルドと母親(インド)

インド

2021年4月中旬以降、感染者が連日30万人を超えるなど急激な感染拡大が続き、深刻な人道的危機に対処するため生活困窮世帯への食料支援、医療従事者への支援、啓発活動の3点を主眼に活動を行いました。

アジア地域

インド、ネパール：医療機器の提供
インド、ネパール、バングラデシュ、東ティモール、フィリピン：
貧困世帯へ食料や現金を支給(合計11万7,144世帯)
インドネシア：自宅学習のためのキットを支給(1万8,950人)
カンボジア：ラジオを通じた衛生啓発
バングラデシュ、フィリピン：小学校や村に手洗い場を建設(36カ所)
ラオス：復学のための奨学金を支給(1,000人)

ASIA



(上) 家庭用の衛生キットを受け取る若い女性(グアテマラ) (下) 支援物資を受け取った女性たち(グアテマラ)

中南米地域

グアテマラ：衛生用品を支給(1万7,947世帯)
コロンビア、パラグアイ、ホンジュラス：ジェンダーに基づく暴力に関する啓発活動を実施
ニカラグア：感染予防対策に関するビデオを制作
ハイチ：学校における衛生トレーニングを実施
ペルー：ベネズエラ避難民を対象とする
衛生啓発(1,400人) および現金支給(954人)

グアテマラ

2020年11月に2つの大型ハリケーンが襲来し190万人が被災、コロナ禍で困窮する人々の暮らしに大きな打撃を与えました。2021年2月に感染予防のための衛生啓発活動や衛生用品の配布を実施。ハリケーンで被災した世帯を含む、家族へ支援物資を提供しました。

LATIN AMERICA

中東・アフリカ地域

ガーナ：村に手洗い場を設置(240コミュニティ960カ所)
エチオピア、スーダン、セネガル、ブルキナファソ、南スーダン：
ジェンダーに基づく暴力に関する啓発活動を実施
ニジェール：ジェンダーに基づく暴力の被害者を支援(66人)
ギニアビサウ：感染予防のための衛生用品を支給(1万9,421人)
シエラレオネ：学校再開支援のためのラジオを支給(971人)
マリ：避難民の家庭に食料を支給(252人)

AFRICA

ガーナ

休校や移動制限のほか、医療サービスが感染症予防と治療に集中したことなどにより、女の子たちは包括的な性教育や必要な保健ケアを受けることが難しくなりました。早すぎる結婚・妊娠やジェンダーに基づく暴力のリスクを減らすために、性と生殖に関する健康と権利や、月経衛生管理に関する研修を実施したほか、生理用品やマスクなどの衛生キットも配布しました。



(上) プランの活動に参加し、生理用品の課税撤廃の嘆願書を担当大臣に手渡す若者(ガーナ) (下) 学校で感染予防の啓発活動に参加する女の子たち(ガーナ)



プラン・スポンサーシップは、活動地域の住民が自ら、地域の問題を洗い出し解決策を考え、実行し、発展する力をつけることを促す持続的な活動です。
また、その活動は、誰もが能力を発揮して暮らしやすい社会をつくる「ジェンダー平等と包摂」の視点を尊重して実施します。

2021年度の活動成果

プラン・スポンサーシップが
支援するチャイルドの数

135万2,053人

プラン・スポンサーシップにおける



支援者数（世界）

約**100.7**万人



支援者数（日本）

約**3.6**万人



寄付金合計（世界）

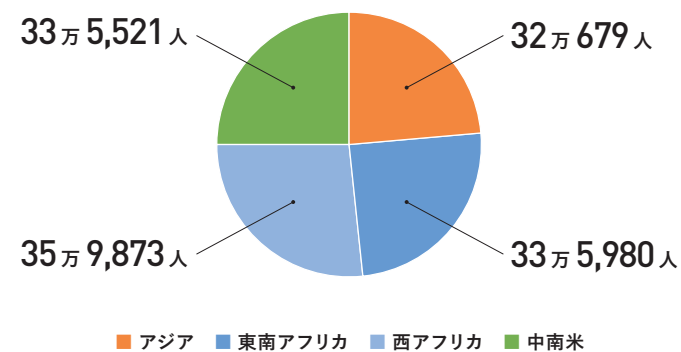
約**3.6**億ユーロ



寄付金合計（日本）

約**17.3**億円

チャイルドの住む地域



コロナ禍のチャイルドへの 温かい応援をありがとうございました

新型コロナウイルスの感染拡大はプラン・スポンサーシップの大きな意義のひとつ、相互交流の促進にも大きな影を落としました。チャイルドからのお手紙や、チャイルドの写真付きの「一年の歩み」を楽しみにしてくださっているなか、通信物が大幅に遅れていることを心よりお詫び申し上げますとともに、オンラインでお手紙が送れる「手紙送信フォーム」のご利用に感謝いたします。

コロナ禍での交流

この一年、チャイルドとスポンサーの皆さまのやりとりには、特に感染の心配やお互いの健康を気遣う励まし合いの言葉が多くみられました。困難な時だからこそ、スポンサーシップを通じて、国を超えた交流の意義がありました。

Kenya

エベリンさん

コミュニティ・ボランティア
チャイルドの母親

私たちは世界中のスポンサーの皆さんと団結しています。手を取り合い、恐怖を克服し、今助けを必要としているかもしれない人に手を差し伸べましょう。



Nicaragua

エルマさん

チャイルド

コミュニティでは、新型コロナウイルスについてさまざまなことを耳にします。礼拝に出席し、仲間と一緒に祈りしています。また、自分たちの身を守るために感染防止の手洗いや消毒も行っています。



Timor-Leste

ジョアナさん

チャイルド

プラン・インターナショナルが支給してくれた衛生キットを受け取り、とてもうれしいです。私も家族も手を洗って、新型コロナウイルス感染症を予防することができます。



コロナ禍でも交流を支えたオンライン

さらなるオンラインでの交流を

コロナ禍では、国際郵便の受付を一時中止している国なども多く、郵便事情は現地の状況に大きく左右されます。日本では職員の出勤制限、日々の作業の多くを担ってくださったボランティアのご来局の停止など、これまでの作業体制の維持が難しく、業務の進捗に影響が出ました。次年度以降は、郵便事情や作業体制に影響されないなど、メリットの多いオンラインを利用した交流を促進できるよう、さまざまな工夫をすすめる予定です。

手紙送信フォームの詳しい内容は同封のチラシに掲載しています。オンラインでの交流のメリットや、写真のアイデア、選べるデザイン便箋などの役立つ情報も掲載していますのでぜひご覧ください。

コロナ禍のさまざまな制限により、お手紙の交流は前年に比べ減りましたが、オンラインでお手紙を送れる「手紙送信フォーム」をご利用いただくことで、チャイルドとの交流を維持していただくことができました。

〈お手紙の件数〉

2020年度

約**3**万件

新型コロナウイルス
感染症拡大の影響

2021年度

約**2.5**万件

- ・国際郵便の制限
- ・職員の出勤制限
- ・ボランティアのご来局停止

ベトナム ガオ村スクール・スポンサーシップが 終了を迎えました

(活動期間：2008年～2021年)



ベトナム中部コントゥム省に暮らす少数民族の子どもたちは、家庭では民族語を話していますが、学校の授業はベトナム語で行われます。そのため十分に読み書き・計算ができず、授業についていくことが難しいなどの問題を抱えていました。プランは子どもたちが通う「学校」を応援し、生徒たちと交流しながら、地域全体の活動を見守る「ガオ村スクール・スポンサーシップ」を開始。地元自治体やパートナー団体との連携のもと、教育や保健、子どもの権利、生計向上などの分野で活動を行いました。このたび「ガオ村スクール・スポンサーシップ」が終了しましたのでその成果をご報告します。

1 教育 〈小学校就学率〉
2008年 **65%** ▶ 2020年 **99%**



教師間の学び合いの様子

教師トレーニングを行い、楽しく熱心に学べる参加型の授業ができるようになりました。校舎や衛生設備の新設や修繕を行い、安全で衛生的な学習環境が整備された結果、多くの子どもたちの学習意欲が高まり、さまざまな活動に積極的に参加するようになりました。

2 保健 〈医療サポートを受けた出産の割合〉
2008年 **5%** ▶ 2020年 **44%**



プランの子育てクラブに通う女性と子ども

栄養不良の子どもの定期健診や、栄養改善、栄養価の高い食事作りのトレーニングなどの子どもたちの健やかな成長と発達に重要な、受胎から2歳の誕生日までのケアに重点を置いて取り組みを実施した結果、保護者たちの乳幼児の保健ケアに関する知識が向上しました。

3 生計向上 〈貧困率〉
2017年 **50%** ▶ 2020年 **28%**



村落貯蓄貸付グループから貸付を受けて始めた豚の飼育

村落貯蓄貸付グループの活動を通じ、地域住民たちは貯蓄の仕方やお金の管理に関する知識を身につけました。とくに、女性たちが家計を管理できるようになったことで、家庭や地域における女性の地位が見直され、尊重されるようになりました。家計収入が増えたことで、家族の暮らしや医療、子どもの教育にかかる費用もまかなえるようになりました。

4 子どもの権利 **2,289人**の子どもたちに性と生殖に関する健康と権利などの講習会を実施



子どもクラブメンバーによる寸劇の様子

子どもクラブの活動や講習会を通じて、子どもたちは、ジェンダー不平等、児童虐待、中途退学、早すぎる結婚や妊娠、教師の体罰などの問題を洗い出しました。自分たちの意見を主張する力を身につけた子どもたちは、絵や歌、寸劇などを用いて住民たちの意識啓発を行い、問題の改善に取り組みしました。

今後の課題と取り組み

子どもたちを取り巻く教育環境は大幅に改善されましたが、地域の課題は残っています。主な課題には、一般家庭への水道や電気などのインフラ整備がすすんでいないこと、2歳未満の子どもの栄養不良の割合が42%にのぼることなどがあります。また、2020年秋にベトナム中部を襲った台風

より、コントゥム省は甚大な洪水被害を受け、復興の途上でもあります。プランは今後、「プラン・スポンサーシップ」を通じて、地域の人々と協力してこれらの課題解決をすすめるとともに、未就学児の教育や思春期の若者たちへのサポートにさらに注力していく予定です。

2021年度 活動地域での成果事例

自らの権利について学び生計を向上する

活動と成果 **1** ジェンダーに基づく暴力と、性と生殖に関する健康と権利を学ぶ研修会参加者：1,200人
2 起業した女の子と若い女性：879人

女の子や若い女性の自立へむけて



研修会に参加した女の子たち

エチオピアのアムハラ活動地域では、差別的な社会規範により、女の子と若い女性たちは弱い立場に置かれています。現地では有害な慣習を助長するような風習もあり、女の子の権利に関する意識はほとんどないのが実情です。しかし、プラン・スポンサーシップの活動により、少しずつ変化が生まれています。ジェンダーに基づく暴力と、性と生殖に関する健康と権利を学ぶ研修会には、のべ1,200人以上が参加し、女の子と若い女性1,000人を対象に月経時の衛生用品と衛生管理に関する情報が提供されました。女の子と若い女性879人が起業の元手となる資金提供を受けて、自ら仕事を立ち上げ生計を向上することができました。

エチオピア (アムハラ活動地域)

関連するおもなSDGs目標



参加者の声

私の家は貧しく、学費を払うことができませんでした。プランから雌鶏2羽とヒツジ1頭の支給を受けて学費が払えるようになりました。私は現在、ピア・エデュケーター(同世代の学び合いの先導者)を務め、女の子クラブにも参加しています。研修のおかげで、将来に明るい光が差してきました。



14歳のチャイルド

コロナ禍に食料と衛生用品、情報を提供

活動と成果 **1** マスクが届けられた世帯数：1,950世帯
2 新型コロナウイルス対策キャンペーンに参加した人数：3,000人以上

緊急時の不安に 安心を届けて 回復へつなげる



配給キットを受け取った女の子

新型コロナウイルス感染症によるロックダウンの延長は、デリー活動地域の多くの家庭で収入と貯蓄の減少につながりました。特に日雇い労働者や小規模商売をしている住民にとっては、食料や衛生用品、生理用品の入手が難しくなりました。この1年、プランでは食料キットを家庭に提供したほか、1,950世帯にマスクを、女の子たちには生理用品を支給しました。また、行政による無料配給を受けることができるよう、サポートしました。3,000人以上を対象にワクチンについての情報を提供した結果、多くのチャイルドの家族が初回接種を受けることができました。

インド (デリー活動地域)

関連するおもなSDGs目標



参加者の声

ロックダウンの影響で夫が仕事を失いました。そのような困難なときに、プランの支援で食料を受け取りました。生きるための心配をすることがなくなり、安心しました。それ以外の問題を解決する余裕ができました。



プランの活動地域に住む38歳の女性



ガールズ・プロジェクトは、社会的、経済的に制約を受け、より困難な状況に直面している女の子や女性たちが抱える問題の解決に取り組みます。プロジェクトは日本が中心となり、現地のニーズに合わせて形成し、実施しています。この活動は、日本の支援者の皆さまに支えられています。

2021年度の活動成果

寄付を募った
プロジェクト数 **6件**

「暴力の被害にあった女の子を守る」／インド

「女性性器切除から女の子を守る」／エチオピア・スーダン

「女の子が売られない社会づくり」／ブルキナファソ

「早すぎる結婚の防止」／ネパール

「シリア難民の女性の安全な居場所」／ヨルダン

「女の子が安心できる学校づくり」／グアテマラ

※プロジェクト指定のないご寄付は、緊急事態への対応や事務局がその時点でもっとも必要と判断したプロジェクトにも資金を充てさせていただきました。

費用合計

約 **3.7億** 円

※日本の皆さまから募った寄付と外務省より拠出された資金を含む
※詳細はP28-29をご覧ください

日本の支援者数

13,318人 (継続支援のみ)



「女性性器切除から女の子を守る」プロジェクトの啓発イベント(スーダン)

2021年度 活動地域での成果事例

「早すぎる結婚の防止」プロジェクト

活動と成果 ① 早すぎる結婚に関する啓発活動：1,598人(うち女の子1,145人)
② 女の子クラブの設立：16クラブ

ネパール

関連するおもなSDGs目標

地域の意識を 変えるために



早すぎる結婚防止を訴える行進

ネパールでは、「早すぎる結婚」が法律で禁止されているにもかかわらず、農村部では52%の女性が18歳未満で結婚しています。また10万人以上の女の子が10歳になる前に結婚させられており、15～19歳の女の子の約17%が身体的負担の大きい「早すぎる妊娠・出産」を経験しています。

成果を持続させる 体制づくりにむけて

3年間のプロジェクトを通じ、多くの人々が早すぎる結婚の弊害に関する理解を深めています。対象の8市区の自治体は、早すぎる結婚防止のための戦略や年間計画を策定し、予算を確保。これらの取り組みへの決意を表明する「早すぎる結婚ゼロ宣言」が5地区で採択されました。バンケ

郡政府はさらに15地区での採択を約束するなど、プロジェクトが終了しても、早すぎる結婚防止に向けた取り組みは、地域の人々の手によって継続されていきます。

参加者の声

女の子クラブ代表

プーナムさん (21歳)

私は大学に進学するため、夫の家族の反対を押し切って実家に帰りました。女の子クラブに参加し、私の人生は一変しました。クラブの代表として自分たちが成し遂げたことに誇りを持っています。村の人たちからは偏見の目で見られたり、批判されたりしますが、私は自由を失わず、自分の夢を叶えるために努力を続けたいと思っています

「シリア難民の女性の安全な居場所」プロジェクト

活動と成果 ① ライフスキル講習と心理社会的ケア・セッションを思春期の子どもたちに実施：223人
② 思春期の子どもをもつ保護者のための親業講習会：211人

ヨルダン

関連するおもなSDGs目標

安心して 生活できる 環境づくりを



難民キャンプの敷地内を歩く女の子たち

シリアと国境を接するヨルダンに開設されているアズラック難民キャンプには約3万8,000人が生活しており、ここ数年シリア難民の女の子の「早すぎる結婚」が倍増しています。結婚させることにより、貧困やキャンプ内外での誘拐や性暴力などから娘たちを守ることができると考える保護者がいることが原因です。

未来を担う若者たちの 知識とスキルが大きく向上

コロナ禍での活動継続にあたり、各種の講習をオンラインに切り替え、自宅での学びが継続できるよう参加者に教材や資材を届けました。ライフスキル講習や、保護者むけの早すぎる結婚のリスクを伝える講習会に参加した人々全員に、知識とスキルの著しい向上が見ら

れました。女性たちは以前よりも自信をもって意見を言えるようになり、知識を深めた女の子たちが、自らの心身の健康と安全を脅かす問題に対して積極的に行動を起こす姿も見られています。

参加者の声

シリア難民の女の子

ファティマさん (14歳)

『チャンピオン・オブ・チェンジ』の講習会で学んだことで、ハラスメントに悩んでいる友だちのサインに気がつき、一緒に相談窓口に通報することができました。私が身につけたスキルが役立って、とても嬉しいです。仲間とともに、難民キャンプを安全で守られた居場所にするためには何をすべきかを話し合っています



グローバル・プロジェクトは、世界が直面する課題やリスクに焦点を当て、「紛争と難民」「気候変動と災害」「少数民族」「障害」「児童労働」「虐待」の分野で弱い立場に置かれた子どもたちを守ります。プロジェクトは日本が中心となり、現地のニーズに合わせて形成し、実施しています。この活動は、日本の支援者の皆さまに支えられています。

2021年度の活動成果

寄付を募った
プロジェクト数 **7件**

「少数民族の子ども教育」／ラオス

「ロヒンギャの子ども保護と教育」／
ミャンマー・バングラデシュ

「暴力のない中学校づくり」／ジンバブエ

「災害に強い学校づくり」／バングラデシュ・ネパール

「障がいのある子どもの教育支援」／トーゴ

「栄養不良の子ども食料支援」／ニジェール

「南スーダン難民の保護と衛生改善」／ウガンダ

※プロジェクト指定のないご寄付は、緊急事態への対応や事務局がその時点でもっとも必要と判断したプロジェクトにも資金を充てさせていただきます。

費用合計

約 **8.5 億円**

※日本の皆さまから募った寄付と外務省より拠出された資金を含む
※詳細はP28-29をご覧ください

日本の支援者数

11,893人 (継続支援のみ)



完成した新しい幼稚園で学ぶ子どもたち(ラオス)

2021年度 活動地域での成果事例

「栄養不良の子ども食料支援」プロジェクト

活動と成果 ① 穀物銀行の管理委員会の運営管理能力強化トレーニング実施：12村、72人
② 洪水の被災世帯へ米、油、石けんを支給：350世帯

ニジェール

関連するおもなSDGs目標  

地域の整備が 子どもたちの 健康に



健診を受診する母親と子ども

ニジェールでは、気候変動による相次ぐ干ばつと洪水が農業にさらなる打撃を与えています。5歳未満児の約42％に慢性的な栄養不良、乳幼児の約23％に急性栄養不良がみられるなど、事態は深刻です。気候変動が与える影響についての知識ももてず、農業からのわずかな収入では家族を養うだけの食料や収入を得ることができません。

収入源の創出や調理指導で 子どもの栄養改善を促進

穀物銀行※の運営が地域の食料の安定供給に貢献しています。妊産婦や5歳未満の子どもたちの健診では、必要に応じて医療機関への照会や栄養指導を行いました。調理指導を行い、家庭で日常的に栄養価の高い食事をとれるようになり

ました。新鮮な野菜を身近に収穫できる環境も整備され、新たな収入源の創出や保護者の能力強化、地域の食料供給体制の整備など、多くの成果が表れています。

※穀物の貯蔵庫と金融機関を兼ねたもの。収穫した穀物を備蓄し、適当な時期に売ることで、より良い収入を得ることができる。また、干ばつなどで食糧不足に陥った場合には、備蓄分から確保する。

参加者の声

家庭菜園で野菜を収穫する女性

ハディオさん (63 歳)

オクラやスイカの種とモリンガの苗を受け取り育てています。すべて順調に育っていて、十分な収穫があるので、食事は菜園で収穫した材料で作ることができます。収穫した作物は、近所の人たちにも分けています。ご支援に感謝申し上げます

「障害のある子どもの教育支援」プロジェクト

活動と成果 ① 子どもクラブメンバーへのトレーニング：
女の子621人、男の子604人、うち障害のある子ども245人
② 小学校へのスロープ建設：21校

関連するおもなSDGs目標  

すべての 子どもたちが 学べる学校を



学校に簡易手洗い場を設置

トーゴでは、障害があることを恥と考える文化が根強く残っており、障害のある子どもは家庭内に隠されたり、地域でのいじめの対象となったりしがちです。学校の施設が整備されておらず、障害のある子どもたちへの教授法も知られていないため、障害のある子どもは学校に登録さえされないという状況が生まれています。

誰もが分け隔てなく学べる インクルーシブ教育にむけて

障害のある子ども156人が補助器具や医療サービスの提供を受けたほか、地域啓発イベントにのべ3,400人が参加し、インクルーシブ教育※の大切さへの理解を深めました。ユースグループは教育省に働きかけ、インクルーシブ教育の実現にむけた活動継続の約束を取り付けました。

教育省、NGO、障害者団体から35人が参加し、課題や学びを共有するとともに、今後のインクルーシブ教育の推進について話し合いました。

※インクルーシブ教育：障害の有無や貧富の差、都市や農村など居住地による区別なく、すべての子どもが分け隔てなく学べる教育のこと

参加者の声

小学校教師

ロカヤトウさん (36 歳)

学校には、目に障害のある子どもが在籍しています。プロジェクトではインクルーシブ教育の理解を深めるためのトレーニングに参加し、障害のある子どもたちが教育を継続するために教師からどのようなサポートを必要としているかを学ぶことができました。

いろいろな支援のカタチ

基幹支援のプラン・スポンサーシップ以外にも、特定分野の課題解決を後押しすることを目的としたいろいろな支援方法があります。企業・団体、個人によるご支援のほか、近年では遺贈寄付・相続財産からの寄付によるご支援も増えています。2021年度は19カ国で45プロジェクトが実施されました。その一例をご紹介します。

オーダーメイド・プロジェクト

個人や企業からのご要望を受け、活動国のニーズに沿ったプロジェクトを策定しご支援をいただいています。「チャイルドの暮らす国を応援したい」という個人・ご家族によるご支援や、「家族の生きた証を支援という形で残したい」というご相続からのご支援、「現地法人・事務所がある国で社会貢献を考えている」という企業からのご支援など、さまざまな思いが込められたプロジェクトが各国で実施されました。

ご支援のカタチ



個人



企業



個人(相続)

ラオス ウドムサイ県



教育支援プロジェクト

少数民族の子どもたち、特に女の子たちに、質の高い就学前教育を提供し、初等教育を継続できるよう学習環境の改善を目指す



適切な指導法を学んだ教師が授業を行う

ネパール スンサリ郡



災害に強い学校づくりプロジェクト

子どもたち、特に障害のある子どもが安心して学べる耐震性のある教室を建設し、学習環境を整備する



完成した校舎

インド

ウッタール・プラデーシュ州



女の子の復学支援と経済的自立支援プロジェクト

新型コロナウイルス感染症の影響により、学校に通えない女の子たちが早すぎる結婚を強制されないよう、復学や職業技術訓練の受講を促す



復学支援教室で学ぶ女の子たち

インドネシア 西ヌサ・トゥンガラ州



性と生殖に関する健康と権利の推進プロジェクト

ピア・エデュケーター※の活動を通じて、特に女の子たちが性と生殖に関する健康と権利を実現できるようにし、早すぎる結婚などを防止する



ピア・エデュケーター養成研修に参加する若者たち

ジンバブエ マシング州



思春期保健プロジェクト

若者が性と生殖に関する健康と権利、子宮頸がん、乳がんに関する正しい知識を得て、自分の身体に決定権を持ち、健康に過ごせることを目指す



コミュニティにおけるオリエンテーション

ウガンダ カムリ県



乳幼児病棟建設プロジェクト

カムリ総合病院内に乳幼児病棟を建設し、ウガンダ東部の乳児死亡率および妊産婦の健康管理の改善を目指す



建設された新生児室

スーダン ホワイト・ナイル州



南スーダン難民を対象とした包括的保健プロジェクト

衛生普及員へのトレーニングを通じた衛生知識の普及と衛生用品の支給、あわせて妊婦と5歳未満児の栄養改善を目指す



保健施設用の給水ポット

グアテマラ ハラバ県、バハ・ペラバス県、 イサバル県、キチエ県



食料支援プロジェクト

新型コロナウイルス感染症の影響で食料不足および栄養不良に直面する子どもと家族に食料支援を行い、子どもの栄養状態を改善する



栄養指導を行うコミュニティ・ボランティア

エクアドル ロスリオス県



教育支援プロジェクト

新しい教室の建設と手洗い場の設置、衛生キットの支給などを通じて、子どもたちの学習環境の改善を目指す



衛生トレーニングを受ける子どもたち

一口100万円プロジェクト

年に2回、プラン・インターナショナルが現地のニーズに基づいてプロジェクトを策定し、一口100万円でご寄付を募ります。支援内容は、教育をはじめ、保健衛生、ジェンダー平等、新型コロナウイルス感染症対策など多岐にわたり、複数の方々のご協力により規模の大きなプロジェクトを作り上げています。



支援で整備された男女別トイレ

エクアドル キト市

小中学校の 新型コロナウイルス 感染症対策プロジェクト

11名のご支援者による共同プロジェクト

エクアドルの首都キトにある4校において、子どもたち、特に女の子たちが、新型コロナウイルス感染症流行下でも安心して学校に通うことができるよう、以下の活動を行う

- 女の子が利用しやすいトイレと手洗い場の設置
- 新型コロナウイルス感染症予防のための衛生トレーニング
- 脆弱な立場にある生徒への衛生用品（マスク、石けん、消毒液、生理用品など）の支給など



完成した就学前教育施設

カンボジア

アンコールチャム郡、
アンコールトム郡、スレイナム郡

乳幼児の栄養と 教育改善プロジェクト

16名のご支援者による共同プロジェクト

カンボジア、シェムリアップ活動地域の3郡、8コミュニティの10村において、就学前の子どもたちと妊産婦の栄養改善および就学前教育の学習環境改善を目指し、以下の活動を行う

- 妊産婦や乳幼児の栄養改善推進のための意識啓発と資料作成
- 栄養不良児の特定と医療機関への引継ぎ
- 新型コロナウイルス感染症の防護・衛生用品の支給
- 2カ所の就学前教育施設で、トイレ、井戸の建設と備品、教材の支給
- 教師への指導法トレーニングと父親を含めた保護者、関係者への保育トレーニングなど

遺贈寄付・相続財産からの寄付

遺贈寄付や相続財産からの寄付への関心が高まるなか、「手続きの方法を知りたい」「相続や終活についても知りたい」などのお問合せをいただいています。遺贈寄付・相続財産からの寄付をより身近に感じていただけるよう、寄付や終活などに関するご相談への対応と情報提供などを目的として、2021年4月に「PLANレガシー1%クラブ」を発足しました。クラブの名前には、「遺産の1%の寄付によって、子どもたちの未来を応援する力は大きい」というメッセージが込められています。今年度は、ご支援者やそのご家族の方を中心に、11件のご寄付をいただきました。



PLANレガシー1%クラブ
フライヤー

※遺贈寄付・相続財産のご寄付に関するご相談や、「PLANレガシー1%クラブ」へのお申し込みをお受けしています。izou@plan-international.jpまでお問い合わせください

子どもの権利擁護やジェンダー平等推進にむけたアドボカシー（政策提言）活動を行っています。
調査研究や提言活動を通じて、プランの活動に共感する人を増やし、日本の市民社会に支えられた力強い発信を行います。
他団体とのネットワークを広げ、より効果的なアドボカシー活動をすすめています。

1 「日本における女性のリーダーシップ2021」 レポート発表 2021年4月

日本における女性のリーダーシップについて、男女2,000人を対象にアンケートやインタビューを行い、レポートにまとめて発表しました。調査結果から、責任ある立場を志向する女性の割合が極端に低いことや、「女性・男性は〜であるべき」などのジェンダー規範により女性の上昇志向が抑えられる傾向にあることがわかりました。レ

ポートでは、女性リーダーへの意欲を育む鍵は「教育課程におけるリーダーとしての経験と周囲からの励まし」、「ジェンダー平等教育」を受けることにあると示しました。この結果は、内閣府男女共同参画局が主催した「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」イベント（2021年6月開催）でも共有されました。



発表したレポート

2 ジェンダー平等達成に向けた 実務者向けガイド作成 2021年4月

国際協力を行う現場では、プランだけではなく多くの支援団体がジェンダー平等に配慮して事業を運営することが求められます。プランは、国際協力に関わる実務者向けに「ジェンダー・トランスフォーマティブ・プログラム・ガイドブック」を作成し公開。実践例や運営におけるポイントを紹介しました。ガイドブック発刊を記念したウェビナーを4月に開催し、カナダのプランが推進する「女性と子どものための保健プログラム」などを紹介しました。



ガイドブック発刊を記念してウェビナーを開催

3 「日本のユース女性の生理をめぐる 意識調査結果」レポート発表 2021年4月

15～24歳の女性2,000人を対象に、生理と生理に関する日常生活についての調査を行い、その結果を公開しました。調査からは、4割の女性が生理用品の購入をためらったことがあり、10人に3人が生理で学校・部活・職場を休んだ経験があることがわかりました。また、「生理がなくなればいい」などネガティブな反応も見受けられ、生理がもたらす経済的影響だけではなく、生理を「恥ずかしく・隠すもの」とするスティグマがもたらす影響も明らかになっています。

Q. 生理用品の購入・入手をためらったことはありますか？ (n = 2,000)		
ある。収入が少ないから	224人	11.2%
ある。お小遣いなど自分を使えるお金が少ないから	173人	8.7%
ある。親の収入が少ないから	45人	2.3%
ある。他のことにお金を使わなければならないから	167人	8.4%
ある。生理用品が高額だから	179人	9.0%
ある。親／保護者が買ってくれないから	34人	1.7%
ある。親／保護者に買ってほしいと頼むのが恥ずかしいから	51人	2.6%
ある。自分で買うのが恥ずかしいから	126人	6.3%
ある。品切れや数量制限などで購入できなかったから	61人	3.1%
その他	12人	0.6%
購入をためらったことはない	1,178人	58.9%
答えたくない	96人	4.8%

アドボカシーグループと連携して調査研究や提言・啓発活動を実施しています。ユースが抱える諸問題を解決するために政策を決定する政治家や、社会に大きな影響力を持つ企業への提言を行います。同世代へ国内のジェンダー課題を伝え、共感を増やす啓発活動も行っています。また、プランの活動及び意思決定のプロセスにプラン・ユースグループの考えや意見を届けるアドバイザリー活動も行っています。

1 「女の子・女性に対するオンライン・ハラスメント 調査報告書」発表 2020年10月

2020年の世界ガールズ・レポートのテーマである「女の子・女性に対するオンライン・ハラスメント※」に合わせ、日本でも独自調査を実施。オンライン・ハラスメントに対しては、社会全体で一丸となって取り組む必要が

あることが明確になりました。また、調査結果から提言書を作成し、内閣府、文部科学省、またSNS企業の業界団体である一般社団法人ソーシャルメディア利用環境整備機構と対話を進めました。



内閣府男女共同参画局の方々と

※「オンライン・ハラスメント」とは、インターネット／モバイルテクノロジーを利用して実行され、ストーキング（付きまとい）、いじめ、ハラスメント、名誉きそん、ヘイトスピーチ、搾取、虐待を含むすべての迷惑行為のこと

2 オンライン・ハラスメントに関する意見交換会 2020年10月

プラン国際本部が主催した女の子・女性に対するオンライン・ハラスメントに関する意見交換会に、Instagram、Facebook、WhatsAppなどのSNSの企業担当者のほか、各国のユースとともに、日本からもプラン・ユースメン

バーが参加しました。SNSのガイドラインを動画などでわかりやすく普及させること、多様な利用者を包摂するために配慮すること、ガイドライン作成にユース女性が参画できるようにすることなどが提言されました。



意見交換会には15人のユースが各国を代表して参加しました

3 「ユースからみた日本の性教育の実態調査報告書」発表と ピア・ワークショップの実施 2021年6月

日本の性教育について、15～19歳の1,050人を対象にアンケート調査を実施しました。調査結果からは、現行の性教育では、妊娠する過程に関して曖昧な知識しか得られていないこと、人権などへの教育が不十分であること、

教師側の意識によって性教育に対して恥ずかしさを覚えてしまう傾向があることがわかりました。また調査でユースが学びたい項目として挙げた、「多様な性」、「SRHR※」について3月にピア・ワークショップを実施しました。

※ Sexual Reproductive Health and Rights 性と生殖に関する健康と権利 身体的、精神的、社会的な健康を維持し、正しい知識を経て、結婚、妊娠、出産などのタイミングを自ら決定する権利



プラン・ユースグループのインスタグラムで告知したピア・ワークショップ

事務局訪問受け入れ停止など、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けるなか、出張授業をオンラインで実施するなどして学校、法人、行政機関を対象に19回の講師派遣を行いました。また、2014年から主催してきた読書感想文コンクールは、2020年度に続き2021年度も中止となりました。

活動に賛同くださる企業・団体・公的機関との連携

プラン・インターナショナルは 2021 年度、810 の企業・団体からご支援をいただきました。「企業として持続可能な開発目標（SDGs）に貢献したい」「寄付つき商品の売り上げを寄付することで、消費者とともに途上国支援をしたい」「社内外のイベントを通じて従業員や関係者の理解を深めたい」などのさまざまな思いから連携と協働の機会をいただき、ともに社会課題の解決を目指しています。また、政府機関や国際機関などとも連携し、プロジェクトを実施しています。長い時間をかけて行う地域開発活動では、継続的なご支援は安定した活動のために必要不可欠です。ご支援の事例をご紹介します。

公的機関との連携
6機関12カ国
30プロジェクト

プランは政府機関や国際機関などと連携しながらさまざまな国でプロジェクトを実施しました。
外務省 NGO 連携無償資金協力：ラオス、ベトナム、グアテマラ、ジンバブエ／**ジャパン・プラットフォーム**：ウガンダ、スーダン、バングラデシュ、ペルー、ベトナム／**外務省** 草の根・人間の安全保障無償資金協力：ホンジュラス、グアテマラ／**世界食糧計画（WFP）**：カンボジア／**国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）**：カメルーン、スーダン／**国際連合児童基金（UNICEF）**：ジンバブエ、ミャンマー

社会貢献活動からの連携

イオン株式会社

ペットボトルキャップで世界の子どもたちを笑顔に

イオン株式会社は、2008年よりグループ企業数社とともに、毎年継続してペットボトルキャップの回収による買取金額をご寄付くださっています。2021年度はご寄付によりベトナムにおける図書室建設や図書支給、コロナ禍における手洗い場の設置など行いました。



新しい図書室で本を読む子どもたち

株式会社宝建材

毎年継続して教育施設建設を支援

2012年にフィリピンの「学校建設プロジェクト」をご支援いただいて以来、継続して毎年プロジェクトをご支援くださっています。社をあげて「子どもたちの命と教育」を支援する取り組みは、事業関係先の方々にも知れ渡り、国際協力への新たな関心呼び起こしています。



支援で完成したベトナム北部ハザン省の小学校

株式会社ポケモン

多様性、公平性、包括性のある社会を目指して

多様性を受け入れる公平な社会の実現に焦点をあて、「Pokémon GO Fest 2020」の一部収益を通じて、インドと東ティモールの2カ国において、コロナ禍でも子どもたち、特に女の子たちが学業を継続できるよう、教育支援活動をご支援くださっています。



プロジェクトの説明を聞く母親たち

武田薬品工業株式会社

全従業員の投票によるグローバルCSRプログラム

医療へのアクセスの向上にむけて継続的に途上国の保健医療の改善をご支援いただいています。グローバルCSRプログラムにより、2021年度は過酷な状況下にある南スーダンとシリア難民の子どもや女性を対象に包括的保健プログラムをご支援くださいました。



医療従事者を囲んでの月例会議

豊田通商株式会社

社員による社会貢献募金で乳幼児病棟を支援

社員が会社から毎年付与される福利厚生ポイントや、社内の改善提案による報奨金を任意で寄付できる社会貢献募金制度2020年度申請分により、2021年はウガンダにおける乳幼児病棟建設をご支援いただきました。



設備の整った施設で生まれた子どもの対応をする看護師

森永製菓株式会社

対象商品で「カカオの国の子どもたち」の教育環境を改善

2008年から継続して「1チョコ for 1スマイル」キャンペーンを通じて「カカオの国の子どもたち」の教育環境を改善するプロジェクトをご支援いただいています。現在は2021年度より開始したグアテマラにおける教育支援活動をご支援くださっています。



正しい手の洗い方を学ぶ子どもたち

商品やサービスの売り上げからの寄付

ARTIDA OUD

Donation プロジェクトによる途上国の女の子支援

2018年よりさまざまな活動を通じて、途上国の女の子をご支援いただいています。「インドに学校を建てる“I am”ドネーションプロジェクト」では、対象商品のジュエリー購入やSNS投稿が支援につながる、購入者参加型のプロジェクトによりご支援をいただきました。



“I am”ドネーション プロジェクト 寄付付商品

株式会社ヴォークス・トレーディング

オーガニックハーブティの売り上げの一部で女の子を支援

産地での持続的事業開発を目的とした社会貢献を実施している食品商社のヴォークス・トレーディングはソーシャルプロダクトとして、オーガニックハーブティー3種をウェブサイト等で販売し、売り上げの一部をガールズ・プロジェクトにご寄付くださっています。



対象商品のオーガニックハーブティ

株式会社キャニオンスパイス

「こどものためのシリーズ」で途上国の子どもたちを応援

株式会社キャニオンスパイスは化学調味料を一切使用していない「こどものためのシリーズ」のカレーウや「こどものためのレトルトシリーズ」などの商品を販売。売り上げの一部を途上国の子どもたちを支援するプロジェクトへご寄付くださっています。



「こどものためのレトルトシリーズ」

イベント・キャンペーンによる募金

アデコグループ

社員と関係者のスポーツ活動量で支援

スポーツの活動時間の達成に応じ、スイスのプラン・インターナショナルを通じてベトナムの女性を中心にIT分野の就職機会を提供するプロジェクトをご支援くださっています。またプランのチャリティランナーとしてマラソン大会にご参加くださっています。



社内で企画したマラソン練習会に参加したメンバー

株式会社TSI JILL by JILLSTUART

寄付付きTシャツの販売による支援

JILL by JILLSTUARTは、2021年6月～11月まで、バックプリントTシャツを販売し、売り上げの一部をプランのガールズ・プロジェクトにご寄付くださいました。



女性の意志や強さ、やさしさをシンボルとした花をプリント

シチズン時計株式会社

女性の新しいスタートを応援

2013年から女の子や女性を支援するプロジェクトに継続的にご支援いただいています。またソーシャルキャンペーン“New TiMe, New Me”を通じてお客様が自身の消費活動を通して途上国の現実を知る”きっかけ”づくりもサポートくださっています。

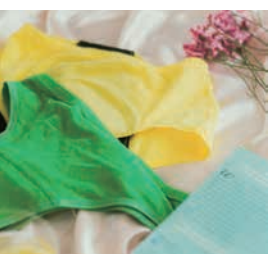


シチズン クロスシーの売上の一部で女性たちを支援

豊島株式会社

新たに立ち上げた自社ブランドからも女の子を支援

オーガニックコットン普及プロジェクトの「ORGABITS（オーガビッツ）」を通じて2015年から継続的にご支援いただいています。今年度は2021年1月に立ち上げた「Hogara（ホガラ）」の吸水型ショーツの売り上げの一部をご寄付くださいました。



「私たちが今ほしいもの」をコンセプトに形にした吸水ショーツ

株式会社イトーヨーカ堂

全国のイトーヨーカドーにレジ横募金を設置

イトーヨーカドー全店舗の会計レジの募金箱で展開される募金活動の寄付先団体として2021年度もプランを選んでいただき、2020年9月～11月の間に集められた募金の全額をプランが実施している新型コロナウイルス対策緊急支援にご寄付いただきました。



全店舗のレジ横に設置された募金箱

2021年度 公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン決算報告

2020年7月1日～2021年6月30日

この決算報告は、PwCあらた有限責任監査法人による監査を受け、理事会並びに評議員会の承認を経て内閣府へ提出した財務諸表等の抜粋です。財務諸表等を含めた事業報告書はウェブサイト<https://www.plan-international.jp>でご覧いただけます。

貸借対照表			2021年6月30日現在(単位:千円)	
	科目	当年度	前年度	
I 資産の部				
1. 流動資産				
	現金預金	1,157,884	1,376,672	
	前払費用	4,914	4,767	
	未収利息	14	37	
流動資産合計		1,162,812	1,381,476	
2. 固定資産				
(1) 基本財産				
	定期預金	200,000	200,000	
基本財産合計		200,000	200,000	
(2) 特定資産				
	メモリアル・ファンド	0	76,932	
	プロジェクト特定寄付金	327,126	636,346	
	遺贈信託財産	14,678	15,559	
	日本NGO連携無償資金協力事業資金	16,143	15,831	
	緊急支援JPFプロジェクト資金	17,156	21,215	
	未成事業支出金	676,923	823,769	
特定資産合計		1,052,026	1,589,652	
(3) その他固定資産				
	建物	1,302	1,451	
	什器備品	18,888	22,854	
	ソフトウェア	4,357	20,750	
	ソフトウェア仮勘定	11,737	0	
	保証金	23,779	23,779	
	電話加入権	883	883	
その他固定資産合計		60,945	69,716	
固定資産合計		1,312,972	1,859,367	
資産合計		2,475,784	3,240,843	
II 負債の部				
1. 流動負債				
	未払金	71,716	56,441	
	未払費用	5,801	5,398	
	預り金	1,792	948	
流動負債合計		79,309	62,787	
2. 固定負債				
固定負債合計		0	0	
負債合計		79,309	62,787	
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
	国庫補助金	352,920	325,218	
	民間補助金	266,823	460,858	
	国際機関補助金	90,479	74,738	
	寄付金	541,804	928,838	
指定正味財産合計		1,252,026	1,789,652	
	(うち基本財産への充当額)	(200,000)	(200,000)	
	(うち特定資産への充当額)	(1,052,026)	(1,589,652)	
2. 一般正味財産				
	(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	
	(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	
正味財産合計		2,396,475	3,178,057	
負債及び正味財産合計		2,475,784	3,240,843	

正味財産増減計算書				2020年7月1日から2021年6月30日まで(単位:千円)	
	科目	当年度	前年度		
I 一般正味財産の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
	基本財産受取利息	20	20		
	スポンサーシップ寄付金	1,731,390	1,715,148		
	マンスリー・サポーター寄付金※	546,361	536,638		
	プロジェクト特定寄付金振替額	683,843	472,856		
	プロジェクト無特定寄付金	77,086	234,356		
	プロジェクト無特定寄付金振替額	64,815	883		
	メモリアル・ファンド利息収益	3	517		
	受取補助金振替額	675,067	451,306		
	受取利息	75	188		
	雑収益	735	2,088		
経常収益計		3,779,395	3,413,999		
(2) 経常費用					
	地域開発・緊急復興支援事業費	3,237,753	2,241,306		
	国際相互理解促進・啓発事業費	150,639	201,562		
	支援募集活動費	409,180	401,898		
	寄付金取扱事務費	112,521	114,520		
	管理費	113,258	126,441		
経常費用計		4,023,351	3,085,727		
評価損益等調整前当期経常増減額		△243,956	328,272		
評価損益等計		0	0		
当期経常増減額		△243,956	328,272		
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計		0	0		
(2) 経常外費用					
経常外費用計		0	0		
当期経常外増減額		0	0		
当期一般正味財産増減額		△243,956	328,272		
一般正味財産期首残高		1,388,405	1,060,133		
一般正味財産期末残高		1,144,449	1,388,405		

II 指定正味財産増減の部			
	プロジェクト特定寄付金	361,623	713,200
	遺贈信託財産受取利息	1	2
	受取補助金等	524,475	627,725
	一般正味財産への振替	△1,423,725	△925,045
当期指定正味財産増減額		△537,625	415,882
指定正味財産期首残高		1,789,652	1,373,769
指定正味財産期末残高		1,252,026	1,789,652
III 正味財産期末残高		2,396,475	3,178,057

※マンスリー・サポーター寄付金は、グローバル・プロジェクトとガールズ・プロジェクトの継続寄付金です。

独立監査人の監査報告書

2021年8月23日

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

理 事 会 御 中

PwCあらた有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 善場 秀明 ㊞

〈財務諸表等監査〉

監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンの2020年7月1日から2021年6月30日までの第11期事業年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドライン1-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）、キャッシュ・フロー計算書及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
 - ・財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
 - ・理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
 - ・理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。
 - ・財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- 監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

〈財産目録に対する意見〉

財産目録に対する監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンの2021年6月30日現在の第11期事業年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかどうかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

受取補助金等内訳

(この表は監査を受けていません)

(単位：千円)

補助金等の名称	交付者	経常収益
日本NGO連携無償資金協力	外務省	220,573
緊急支援	ジャパン・プラットフォーム	326,387
食糧安定供給	世界食糧計画	37,628
アルバート・アインシュタイン難民学術イニシアチブ	国連難民高等弁務官事務所	39,597
緊急対応基金	国連難民高等弁務官事務所	13,356
事業補助金	国連児童基金	31,617
事業補助金	スタンピック銀行	5,909
合計		675,067

経常費用内訳

(単位：千円)

		活動国 プログラム費	広告・広報費	人件費	事務費	施設費	計
事業費	地域開発・緊急復興支援事業費	3,072,774	776	100,507	27,250	36,446	3,237,753
	国際相互理解促進・啓発事業費	-	1,372	71,634	56,117	21,516	150,639
	支援募集活動費	-	287,144	68,541	28,678	24,817	409,180
	寄付金取扱事務費	-	-	32,420	71,671	8,431	112,522
管理費		-	-	76,117	21,570	15,570	113,257
合計		3,072,774	289,292	349,219	205,286	106,780	4,023,351

事業一覧

(この表は監査を受けていません)

(単位：千円)

			プラン・スポンサーシップ オーダーメイドプロジェクト他	ガールズ・ プロジェクト	グローバル・ プロジェクト	緊急・復興支援	合計	
地域開発・ 緊急復興支援事業費	アジア	バングラデシュ	バングラデシュ地域開発プロジェクト	62,191	-	-	-	62,191
			ミャンマー避難民および地域住民を対象とした教育支援	-	-	139,736	-	139,736
			学校とコミュニティの防災	-	-	16,975	-	16,975
		カンボジア	カンボジア地域開発プロジェクト	105,583	-	-	-	105,583
			地域主導型の小学校給食	-	-	70,649	-	70,649
		中国	中国地域開発プロジェクト	8,619	-	-	-	8,619
			インド地域開発プロジェクト	61,836	-	-	-	61,836
		インド	新型コロナウイルス対策緊急支援	-	-	-	12,132	12,132
			暴力の被害にあった女の子を守る	-	51,934	-	-	51,934
		インドネシア	インドネシア地域開発プロジェクト	51,133	-	-	-	51,133
			ラオス地域開発プロジェクト	79,113	-	-	-	79,113
		ラオス	少数民族の子どもの教育	-	-	59,829	-	59,829
			ミャンマー地域開発プロジェクト	54,982	-	-	-	54,982
		ミャンマー	ロヒンギャの子どもの保護と教育	-	-	17,764	-	17,764
			若者の参加と子どもの保護	-	-	13,354	-	13,354
			ネパール地域開発プロジェクト	82,805	-	-	-	82,805
		ネパール	学校とコミュニティの防災	-	-	21,944	-	21,944
			早すぎる結婚の防止	-	57,580	-	-	57,580
		フィリピン	フィリピン地域開発プロジェクト	52,357	-	-	-	52,357
		タイ	タイ地域開発プロジェクト	3,300	-	-	-	3,300
		東ティモール	東ティモール地域開発プロジェクト	15,166	-	-	-	15,166
		ベトナム	ベトナム地域開発プロジェクト	124,332	-	-	-	124,332
			水害被災地域における学校再開および生計向上	-	-	-	4,873	4,873
			早すぎる結婚の防止	-	7,904	-	-	7,904
		アジア小計		701,417	117,418	340,251	17,005	1,176,091
	中東	ヨルダン	シリア難民の女性の安全な居場所	-	19,764	-	-	19,764
		レバノン	レバノン化学工場爆発緊急支援	3,000	-	-	-	3,000
		中東小計		3,000	19,764	-	-	22,764

			プラン・スポンサーシップ オーダーメイドプロジェクト他	ガールズ・ プロジェクト	グローバル・ プロジェクト	緊急・復興支援	合計	
中南米	ボリビア	ボリビア地域開発プロジェクト	23,622	-	-	-	23,622	
	ブラジル	ブラジル地域開発プロジェクト	5,865	-	-	-	5,865	
	コロンビア	コロンビア地域開発プロジェクト	17,243	-	-	-	17,243	
		新型コロナウイルス対策緊急支援	-	-	-	7,500	7,500	
	ドミニカ共和国	ドミニカ共和国地域開発プロジェクト	10,502	-	-	-	10,502	
	エクアドル	エクアドル地域開発プロジェクト	55,509	-	-	-	55,509	
	エルサルバドル	エルサルバドル地域開発プロジェクト	15,193	-	-	-	15,193	
		グアテマラ地域開発プロジェクト	76,523	-	-	-	76,523	
	グアテマラ	女の子が安心できる学校づくり	-	92,469	-	-	92,469	
		小学校建設	-	-	1,985	-	1,985	
		新型コロナウイルス対策緊急支援	-	-	-	5,450	5,450	
		先住民族の女の子の収入向上	-	8,172	-	-	8,172	
	ハイチ	ハイチ地域開発プロジェクト	764	-	-	-	764	
	ホンジュラス	ホンジュラス地域開発プロジェクト	26,131	-	-	-	26,131	
		小学校建設	-	-	3,695	-	3,695	
	ニカラグア	ニカラグア地域開発プロジェクト	13,966	-	-	-	13,966	
	パラグアイ	パラグアイ地域開発プロジェクト	18,357	-	-	-	18,357	
	ペルー	ベネズエラ避難民の保護と生計向上	-	-	7,796	-	7,796	
		ペルー地域開発プロジェクト	32,268	-	-	-	32,268	
	中南米小計			295,943	100,641	13,476	12,950	423,010
	東南アフリカ	エジプト	エジプト地域開発プロジェクト	20,485	-	-	-	20,485
エチオピア		エチオピア地域開発プロジェクト	74,778	-	-	-	74,778	
		女性性器切除から女の子を守る	-	31,283	-	-	31,283	
ケニア		ケニア地域開発プロジェクト	55,924	-	-	-	55,924	
マラウイ		マラウイ地域開発プロジェクト	5,837	-	-	-	5,837	
モザンビーク		モザンビーク地域開発プロジェクト	2,428	-	-	-	2,428	
ルワンダ		ルワンダ地域開発プロジェクト	11,047	-	-	-	11,047	
		南スーダン地域開発プロジェクト	75,990	-	-	-	75,990	
スーダン		エチオピア難民およびホストコミュニティの子どもの保護	-	-	1,173	-	1,173	
		スーダン地域開発プロジェクト	56,137	-	-	-	56,137	
		女性性器切除から女の子を守る	-	51,816	-	-	51,816	
		南スーダン難民およびホストコミュニティの子どもの保護	-	-	13,907	-	13,907	
タンザニア		南スーダン難民の保健衛生	-	-	107,751	-	107,751	
		タンザニア地域開発プロジェクト	67,913	-	-	-	67,913	
ウガンダ		ウガンダ地域開発プロジェクト	73,423	-	-	-	73,423	
		南スーダン難民の子どもの保護と衛生改善	-	-	158,494	-	158,494	
ザンビア		ザンビア地域開発プロジェクト	5,701	-	-	-	5,701	
		ジンバブエ地域開発プロジェクト	103,711	-	-	-	103,711	
ジンバブエ		思春期の子どもに対する暴力防止・保護	-	-	31,617	-	31,617	
		分娩待機室建設事業	-	-	5,978	-	5,978	
		暴力のない中学校づくり	-	-	90,429	-	90,429	
東南アフリカ小計			553,373	83,100	409,350	-	1,045,822	
西アフリカ	ベナン	ベナン地域開発プロジェクト	20,758	-	-	-	20,758	
	ブルキナファソ	ブルキナファソ地域開発プロジェクト	20,976	-	-	-	20,976	
		女の子が売られない社会づくり	-	19,764	-	-	19,764	
	カメルーン	カメルーン地域開発プロジェクト	11,956	-	-	-	11,956	
		難民への奨学金支給	-	-	48,769	-	48,769	
	ガーナ	ガーナ地域開発プロジェクト	21,358	-	-	-	21,358	
	ギニア	ギニア地域開発プロジェクト	9,683	-	-	-	9,683	
	ギニアビサウ	ギニアビサウ地域開発プロジェクト	4,473	-	-	-	4,473	
	マリ	マリ地域開発プロジェクト	4,992	-	-	-	4,992	
		ニジェール地域開発プロジェクト	25,831	-	-	-	25,831	
	ニジェール	栄養不良の子どもの食料支援	-	-	30,764	-	30,764	
		セネガル	セネガル地域開発プロジェクト	24,085	-	-	-	24,085
	シエラレオネ	シエラレオネ地域開発プロジェクト	4,446	-	-	-	4,446	
		トーゴ	トーゴ地域開発プロジェクト	52,862	-	-	-	52,862
	トーゴ	障がいのある子どもの教育支援	-	-	3,860	-	3,860	
		西アフリカ小計			201,420	19,764	83,393	-
日本	「令和2年7月豪雨」緊急支援	-	-	-	5,921	5,921		
		-	30,212	-	-	30,212		
	日本 小計		-	30,212	-	5,921	36,133	
PII 国際本部			229,356	-	-	-	229,356	
地域開発・緊急復興支援事業費			1,984,509	370,898	846,470	35,876	3,237,753	
国際相互理解促進・啓発事業費			150,639	-	-	-	150,639	
支援募集活動費			270,940	90,808	39,388	8,044	409,180	
寄付金取扱事務費			85,531	14,229	12,761	-	112,521	
管理費			86,078	14,111	11,317	1,752	113,258	
経常費用計			2,577,697	490,046	909,936	45,672	4,023,351	

注記：合計欄の横に、アルファベットが振られている事業は、以下の団体による助成により実施した費用を一部含みます。

A 外務省 日本NGO連携無償資金協力、B 外務省 草の根・人間の安全保障無償資金協力、C ジャパン・プラットフォーム、D 国連世界食糧計画(WFP)、E 国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、

F 国際連合児童基金(UNICEF)、G スタンピック銀行

2021 年度プラン・インターナショナル国際連結決算速報

2020年7月1日～2021年6月30日

これらは、プラン・インターナショナル活動国の連結した財務状況の速報値です。確定値はウェブサイト <https://www.plan-international.jp> でご報告いたします。

※ 1 ユーロは約 134 円です（2021 年 6 月現在）

連結損益計算書および
連結包括損益計算書

2020 年 7 月 1 日～ 2021 年 6 月 30 日 (単位：1,000€)		
科目	当年度	前年度
I 収益		
スポンサーシップ寄付金	360,114	360,913
受取補助金	396,535	345,761
現物補助金	78,248	47,898
その他寄付金	150,800	140,089
受取利息	6,211	3,818
事業収益	17,772	11,410
収益合計	1,009,680	909,889
II 費用		
プログラム費	745,982	706,666
支援募集活動費	109,237	115,455
管理費	62,772	74,892
財務活動費	1,287	1,428
収益事業費	10,514	5,846
為替損益計算前支出合計	929,792	904,287
為替差損(益)	4,396	5,983
費用合計	934,188	910,270
当期損益差額	75,492	△ 381
III 包括損益		
退職給付引当金見積変更	251	△ 530
有価証券評価損益	1,014	1,072
外貨換算調整	△ 2,875	△ 2,755
当期包括損益差額	73,882	△ 2,594

連結貸借対照表

2021年6月30日現在 (単位：1,000€)		
科目	当年度	前年度
I 資産の部		
流動資産		
現金および現金同等物	406,533	341,728
損益を通じて公正価値で測定される金融資産	40,180	39,660
償却原価で評価される金融資産	5,031	17,182
未収金	49,115	49,776
前払費用	13,871	11,315
棚卸資産	1,477	1,435
流動資産合計	516,207	461,096
固定資産		
損益を通じて公正価値で測定される金融資産	10,237	9,322
包括損益を通じて公正価値で測定される金融資産	7,257	-
償却原価で評価される金融資産	-	3,159
金銭信託等其他金融資産	939	892
有形固定資産	65,180	70,764
無形固定資産	22,211	12,896
未収金	2,544	2,798
固定資産合計	108,368	99,831
資産合計	624,575	560,927
II 負債の部		
流動負債		
当座借越	332	505
未払金	26,988	30,647
未払費用	39,310	42,934
繰延収益	14,809	14,061
退職給付引当金等	19,689	20,780
その他流動負債	11,624	14,163
流動負債合計	112,752	123,090
固定負債		
借入金	1,595	1,660
退職給付引当金等	-	2,202
その他固定負債	48,573	46,843
その他の負債および費用の引当金	2,680	2,039
固定負債合計	52,848	52,744
負債合計	165,600	175,834
III 正味財産の部		
一般正味財産	191,425	151,589
一時的指定正味財産	246,168	213,709
永久的指定正味財産	21,382	19,795
正味財産合計	458,975	385,093
負債および正味財産合計	624,575	560,927

公益財団法人

プラン・インターナショナル・ジャパンの組織について

目標

私たちは、子どもの権利が守られ、女の子が差別されない公正な社会を実現する

私たちは世界中の人々とともに、以下の活動を行う

1. 子どもや若者・地域社会が、女の子や、疎外され弱い立場にある人々への差別の根本原因を断ち切り、変革できるよう力づける
2. 子どもたちが直面している課題に対し、私たちの知識や経験を生かして、地域や国・国際社会が政策や意識・行動を変えていけるよう促す
3. 子どもたちや地域社会が、自然災害や紛争などの危機的状況に備え、対応し、困難を乗り越えられるようともに働く
4. 子どもたちが、誕生から大人になるまで、安全な環境のもと、健やかに成長できるよう支える

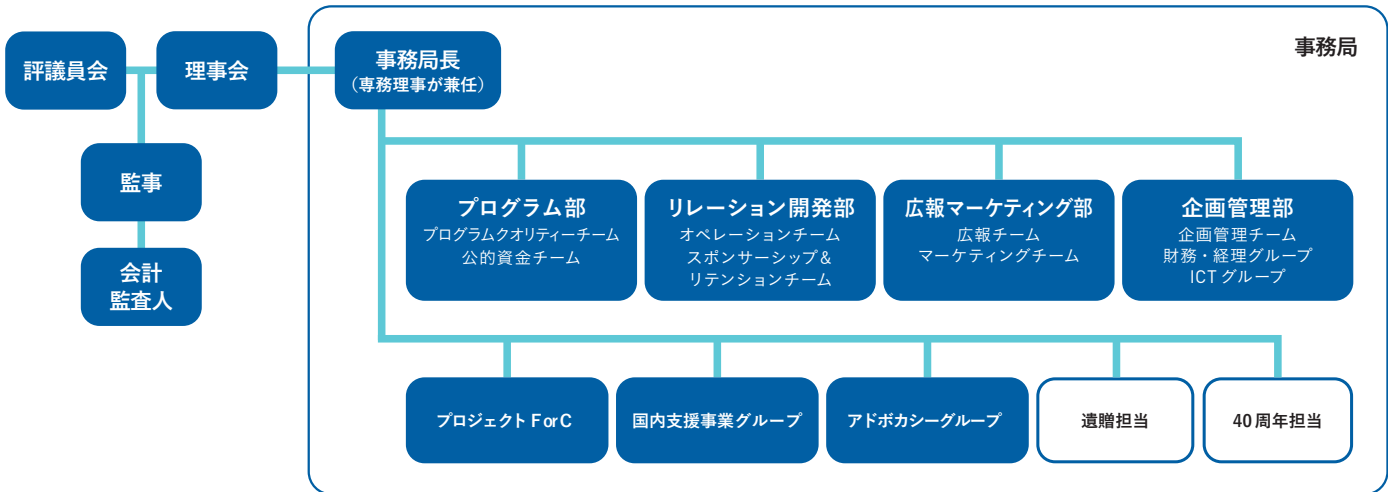
評議員・役員・顧問名簿

※特に記載がないものは非常勤

2021年11月現在

評議員会議長	宮代 昌三	八丈ビューホテル株式会社代表取締役
評議員	飯田百合子	ボトルト株式会社代表取締役
評議員	一井呉夫	株式会社AMS顧問
評議員	倉林栄一	日本AMC株式会社代表取締役
評議員	兄玉治美	アジア開発銀行駐日代表
評議員	平 久直	税理士
評議員	島澤 保	弁護士
評議員	増田明美	スポーツジャーナリスト、大阪芸術大学教授
評議員	南 砂	読売新聞東京本社常務取締役調査研究本部長
理事長 (代表理事)	池上清子	長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授、日本赤十字社理事
副理事長 (業務執行理事)	粗 信仁	政策研究大学院大学政策研究院参与
専務理事 (代表理事)	棚田雄一 (常勤)	公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン代表理事・専務理事／事務局長
理事	アールフット 依子	株式会社ボッテガ・ティグレ代表取締役、フィールズ株式会社社外取締役、株式会社ほぼ日エグゼクティブアドバイザー
理事	安藤良一	元プラン名古屋の会代表、元有限会社岩塚材木代表取締役、元愛知県木材買方協同組合副理事長
理事	ゲレロ マウリシオ ホセ カルロス	プラン・ユースグループ卒業メンバー、外資系IT企業勤務
理事	富本幾文	山口大学経済学部教授 (特命) 兼副学長補佐
理事	半田 滋	アジア アフリカ インベストメント アンド コンサルティング Pte. Ltd.ダイレクター
理事	森 和之	前都市総合サービス株式会社代表取締役社長
理事	安田尚代	外国法事務弁護士
監事	青木雄二	公認会計士
監事	白山真一	公認会計士、国立研究開発法人日本医療研究開発機構監事、JICベンチャー・グロース・インベストメンツ株式会社監査役
監事	中田ちず子	公認会計士、税理士
顧問	川上隆朗	元国際協力事業団 (JICA) 総裁

組織図





学校給食プログラムによって学習意欲が向上した子どもたち シエラレオネ

THANK YOU!

2021年度も温かいご支援を ありがとうございました!!

プラン・インターナショナルの活動は皆さまのご支援により支えられています

公益財団法人 **プラン・インターナショナル・ジャパン**

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-22
 サンタワーズセンタービル 10F & 11F
 TEL : 03-5481-6100 FAX : 03-5481-6200
www.plan-international.jp

表紙：プランが修復した給水設備で手を洗うカメルーンの女の子
 この冊子は、一冊あたり約 38 円で製作されています

プランのSNSをフォローしてください

プラン・インターナショナルのFacebook、
 Instagram、Twitterで活動国の情報や事務局の
 日々のあれこれを発信中！



※「国際NGOプラン・インターナショナル」で検索してください。

